

就職最前線

ジレンマからの脱却

高等専修学校 進路指導部

いくつかの職場で、同じような悩みを抱える卒業生たちがいる。

『あいつの方が後から入ってきたのに、自分より難しいことを任されている』
社歴（職場歴）と職責・職域について、釈然としない感情を持た余してしまうことがある。現場において、後輩社員からの業務依頼に強い抵抗を感じ、不自然な言動をとってしまったたり、不安定な状態に陥ってしまう事例が少なくない。特に、周囲に心配りができるタイプの方に多いトラブルかも知れない。

『私とあの人とは同じ年齢なのに学歴が違うので、任される業務内容が異なる』
実年齢と学歴に関わるジレンマ。このケースも前述のトラブル同様、社歴という問題もかかわってくるのが殆どである。

ご存知のように、東学園の卒業生たちは真面目であり、努力家である。部活動経験者も多く、縦の関係（先輩・後輩）についても正しく認識しており、ある意味厳しい。そのような彼らが直面する社会における洗礼の一つである。「何故、自分にはやらせてもらえないのか？」「私はいつまでこの仕事をしていなければいけないのか？」本人レベルでは納得できていたことが、気になる存在の出現により突如問題化する。行き場のない感情が、知らず知らずのうちに相手の方に向けられ、トラブルに発展することが多い。

そのような時、「障害者雇用について」「できる仕事・できない仕事について」といった根底にある事実の認識を取り付け、自らが置かれている立場・立ち位置を理解させなければならない。本人のプライドやモチベーションを尊重しながら、厳しい現実を知らせ、理解させる。簡単なことではない。

故に、生活の中に家庭や職場以外のいくつかの確固たるチャンネル（余暇の過ごし方・豊かな人間関係等）の存在が大切となる。自己肯定が保てる環境こそが、ジレンマからの脱却の鍵となるだろう。